

平成29年度

自己点検・評価書
(学校評価報告書)

附属天王寺中学校

1 附属天王寺中学校の現況

(1) 学校名

大阪教育大学附属天王寺中学校

(2) 所在地

大阪府大阪市天王寺区南河堀町4-88

(3) 学級数・収容定員

12学級(1学年4学級) 収容定員480人(1学級40人)

(4) 幼児・児童・生徒数

479人(男子240人・女子239人)

(5) 教職員数

校長(併任) 1人, 副校長 1人, 主幹教諭 1人, 教諭 18人(うち, 臨時的雇用3人,),
非常勤講師 7人
事務職員 3人(専任1人, 事務補佐員2人, 臨時用務員(用務員)1人)

2 附属天王寺中学校の特徴

質実剛健の校風のもと、生徒一人ひとりがお互いの多様性を尊重し合う中で、主体的に協同的な学びを展開していくことを重視し、将来の市民社会をリードしていくための“生きる力”の育成をめざしている。
天王寺型中高連絡進学に基づく6年一貫教育の研究と実践を続けている。

3 附属天王寺中学校の役割

- (1) 大阪教育大学と一体となり、教育の理論と実践に関する研究を行うこと。
- (2) 教育に関する理論を実践し、授業や研究会で実証すること。
- (3) 大阪教育大学の教育実習機関として、効果的な実習活動を行うこと。
- (4) 大阪教育大学が行う現職教員の再教育の一端を担うこと。

4 附属天王寺中学校の学校教育目標

- ・ 正義を愛し、真理を追究する旺盛な向学心を持ち、透徹した判断力を養う。
- ・ 強固な意志を持ち、頑健な心身を育て、自主的・積極的な実践力を身につける。
- ・ 他人を愛し、自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。
- ・ 社会の一員となるための、責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。

5 附属天王寺中学校の学校教育計画

1. 生徒の学力と、「生きる力」を育てる活動を、各教科・分掌で工夫し、実践する。特に、自治会やホームルーム等の集団における生徒の自主性と主体性に基づく諸活動をする。
2. 生徒の活動を支えるための、教育環境を整備・充実させるとともに、生徒の将来に向けた進路選択と実現に向けた取り組みを行う。
3. 学校独自の取り組みを通してカリキュラム全体の充実を図り、教育研究・教育実習・生徒指導の各領域における成果を発信する。

6 附属天王寺中学校の平成29年度 重点目標(評価項目), 具体的な取組内容(評価指標)・評価結果

評価の基準

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 正義を愛し, 真理を追究する旺盛な向学心を持ち, 透徹した判断力を養う。 強固な意志を持ち, 頑健な心身を育て, 自主的・積極的な実践力を身につける。 他人を愛し, 自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。 社会の一員となるための, 責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。
学校教育計画	1. 生徒の学力と, 「生きる力」を育てる活動を, 各教科・分掌で工夫し, 実践する。特に, 自治会やホームルーム等の集団における生徒の自主性と主体性に基づく諸活動を活用する。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1) ・生徒の学力向上と, 自主的な学習・生活習慣の確立を進める。 ・互いの個性と能力を尊重する態度を育成し, 個々の力量を十分に発揮させる。	① 自由研究と高校の総合学習の連携を図る。(教務部)	中高の課題研究の連携のための研修等は行なえていない。中の自由研究の優秀者が高のSSH生徒発表会で発表を行なった。	課題研究の中高教員の研修や連絡会を開く。	C		B	
	② ICTを積極的に活用している教員の授業を広く周知し, 授業見学などの機会の提供を行う。(庶務部)	3学期に, 中高併せて4授業の公開を行った。ICT活用の内容を周知することによって, 参観できなかった教員にも情報共有することが出来た。	教科教育の観点から, 公開授業を行っている研究部と区別し, 「教科を越えて活用できるICT授業の公開」であることをもっと明確にすべき。	B		B	

<p>③ 学芸会・音楽会などの行事を通して生徒に達成感を味合わせるために、事前の企画立案を計画的に行う。 (生指)</p>	<p>各行事の企画立案に関しては、概ね問題なく行うことができたが、各分掌ごとの進捗状況を逐一把握することができない状況も生じた。</p>	<p>行事内の分掌間での連携を逐一とり、生徒指導部が円滑に進捗状況を把握するために、行事の分掌長を生徒指導部の教員にする。</p>	<p>A</p>	<p>達成度にクラスによるばらつきがあるので、Aの評価は適切でない。</p>	<p>C</p>	<p>一律に進行していくことが大事ではないが、各学級の進捗状況をとくに学年内でより緊密に情報共有する。</p>
<p>④ 中高6年間を通じて、人権教育の視点から講演等を適正配置し、人権意識を高める (健人)</p>	<p>中・高それぞれ3年間を見越した人権教育を志向し、ある程度達成できたが、中高6年間を見通した人権教育体制を構築できなかった。</p>	<p>中高6年間を通じた人権教育を再検討する必要がある</p>	<p>B</p>		<p>B</p>	
<p>⑤ ・自らの思考や価値観、判断理由等を言語化し共有させる機会を授業において確保し、他者の価値観に触れる機会を多く設ける。(社会科)</p>	<p>探究活動、レポート、発表やディベート等の活動を発達段階に応じて取り入れ、思考の言語化や価値共有が出来る機会を確保することができた</p>	<p>単元や分野によっては、十分に発表の機会を確保できない場面もあり、また評価の基準の作成に時間を多く割くことになってしまった。</p>	<p>A</p>		<p>A</p>	
<p>⑥ 基礎基本の定着とそれを用いた論理的思考力の養成とを目指し、主体的に学習に取り組む力が身に付くよう授業を工夫する。授業中の学習活動で得たものへの理解を、一人一人が</p>	<p>教科書の内容を中心とした授業を進めた。基本事項のより深い理解を目指し、定期考査ごとに問題集を用いた演習を課題とした。また、単元ごとに、今後の流れを示し、予習の大切さを伝えた。研究会においては、ICT機器を活用して今までの知識を自由に組み合わせる生徒が主体的に取り組む1つの提案としての授業を行った。</p>	<p>中学、高校共に早い時期からの学力不振者がおり、この生徒に対する指導のあり方について、今後、更なる検討が必要である。</p>	<p>B</p>		<p>A</p>	

	<p>一層深められるよう、共に学びあうスタイルの授業を 実践する。 (数学科)</p>						
⑦	<p>生徒が、将来自ら目標を設定し、進路を切り開くことができるよう、本当の力をつけさせることを重視する。(理科)</p>	<p>教員の交流もあり、科目をこえた「理科」「自然科学」としての感覚を生徒に伝えることができた。</p>	<p>各教科の授業(座学、実験等)と自由研究を深く関連づけていく必要性を感じている。</p>	B		A	
⑧	<p>課題解決的な学習過程で授業を進める中で自主・自律的な行動能力を高める。(保体科)</p>	<p>生徒の発達段階を考慮しながら教科として授業の中で十分意識して取り組めた</p>	<p>来年度も保健体育科の目標を生徒に意識させながら指導を継続したい</p>	B		A	

6 附属天王寺中学校の平成29年度 重点目標(評価項目), 具体的な取組内容(評価指標)・評価結果

評価の基準

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 正義を愛し、真理を追究する旺盛な向学心をもち、透徹した判断力を養う。 強固な意志を持ち、頑健な心身を育て、自主的・積極的な実践力を身につける。 他人を愛し、自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。 社会の一員となるための、責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。
学校教育計画	2. 生徒の活動を支えるための、教育環境を整備・充実させるとともに、生徒の将来に向けた進路選択と実現に向けた取り組みを行う。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1) ・生徒の学力向上と、自主的な学習・生活習慣の確立を進める。 ・互いの個性と能力を尊重する態度を育成し、個々の力量を十分に発揮させる。	① 紙媒体に代わる記録媒体による教育資産の蓄積を促す。(庶務)	中高ともにナスナビなどのネットワーク共有システムを活用した、教育資産の蓄積が出来た。	ネットワーク共有システムの利用状況を調べ、活用の方向性を検討する。	B		B	
(2) ・将来の目標を見据えた進路意識を高めさせ、その実現に向けた支援を行う。	① iPad やパソコンなどの管理とメンテナンスシステムの改善を行う。特に専門的知識や技能	大学との会議の中で、附属学校のICT管理について協議でき、大学の情報機器管理の方に来校いただいた。	継続的なメンテナンス要請が出来ていない。一度の来校では、問題解決に至っていない。	A	継続的なメンテナンス要請が出来ていないからAではないだろう。	C	各種機器の現状把握をより綿密に行う。予算措置がなされていないので、校内での対応はそれが限界か。

<p>・生徒と教員が協働して健康と安全を意識した教育環境の整備を図る。</p>	<p>が必要なものについては、外注も検討していく。 (庶務部)</p>						
	<p>② 確かな学力を保障するため、定期考査における学力保障や、自発的な学習を促す支援を継続する。(社会科)</p>	<p>長期休業中や定期テスト等において、基礎知識が身に付いていない生徒には追試や課題を与え、基礎学力と学習習慣の定着を行った。</p>	<p>課題の提出は一定出来たものの、年間を通して基礎学力に課題を残す生徒も多かった</p>	A	<p>基礎学力に課題を残しているから、Aにはならないだろう。</p>	C	<p>評価規準および基準を適正なものに修正する。</p>
	<p>③ 教科会での情報交換を密にし、各教員の日常の学習活動に対する工夫や取り組みを教科の教員間で共有し、生徒の指導に活かす。(理科)</p>	<p>「理科における学びの自立を目指す評価の工夫と改善」というテーマで1年を通じて議論する機会を多く持つことができた</p>	<p>引き続き科会を充実させ、授業の進み具合など情報交換を行うようにしていく。</p>	A		A	
	<p>④ 授業を通して、心を豊かにし、姿勢や表情などの意識を高め、安心安全な場を提供し、個々の自己実現に繋げる。(音楽科)</p>	<p>小さな成功体験を数多く経験させ、他者を受け入れ、自己尊重感に繋げている。</p>	<p>セルフコントロールや心の在り方について、より知識を得る必要がある。</p>	A		A	
	<p>⑤ 老朽化している体育施設の補修や器具等の安全チェックをおこなう。 (保体科)</p>	<p>昨年に続き体育器具庫に重点を置き、物品の管理、整理整頓を徹底した</p>	<p>まだまだ様々な施設において経年による傷みがあり来年度もこまめな安全点検の継続が必要</p>	B		B	

<p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・附属校として求められる研究テーマを設定し、その取り組みと成果を発信する。 ・生徒の対外的な成果発表を支援する。 	<p>① 知識や理解だけでなく、思考や判断、表現の評価についても妥当な基準を示し、主体的に学習に取り組む環境を培う。(社会科)</p>	<p>「リテラシー教育」を主眼におき、様々な情報から必要なものを取捨選択し、利用する視点を継続して与え続けることができた。</p>	<p>教育研究会や近附連における発表がなかったため、本年度の研究に対して外部からの意見を頂く機会が少なかった。</p>	B		B	
	<p>② 中高の学習活動の連携を推進する環境を整える。 (教務)</p>	<p>図書館のシステムの電子化を推進し、中高の調べ学習などの学習活動を支援している。</p>	<p>図書館の内容や設備の充実を図り、電子化を進める。</p>	B		B	

6 附属天王寺中学校の平成29年度 重点目標(評価項目), 具体的な取組内容(評価指標)・評価結果

評価の基準

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 正義を愛し, 真理を追究する旺盛な向学心をもち, 透徹した判断力を養う。 強固な意志を持ち, 頑健な心身を育て, 自主的・積極的な実践力を身につける。 他人を愛し, 自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。 社会の一員となるための, 責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。
学校教育計画	3. 学校独自の取り組みを通してカリキュラム全体の充実を図り, 教育研究・教育実習・生徒指導の各領域における成果を発信する。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1) ・生徒の学力向上と, 自主的な学習・生活習慣の確立を進める。 ・互いの個性と能力を尊重する態度を育成し, 個々の力量を十分に発揮させる。	① 読む、書く、調べる、を主軸とした授業を中心に、思考力、表現力、探求力、想像力を養い、「生きる力」につながる言語力をつける。また、それぞれの力を自律的に築こうとする精神を育てる。 (国語科)	「自立した読書人を育てる」をテーマにした、本年度の教育研究会・研究授業の授業構想に、重点目標の達成を目指した、日々の取り組みの振り返りを反映させることができた。	思考力の育成という点において課題が残る。教材・発問・課題設定の吟味もさることながら、思考力をはかるための評価の枠組みの再考が必要である。	B		A	
	② 音声面を意識した語彙や文法の学習とアウトプットに	教科書の題材を深めるための音読活動や基礎英語を使った家庭学習・帯活動を継続的に実施した	より指導を徹底する必要がある (高)	与えられた場面に必要な語彙や	B		B

	つながるインプット活動を充実させる (英語科)		文法指導を行ったが、アウトプットにはまだ大きな伸びが見られないため、さらなるインプット活動の充実やアウトプット活動の工夫が必要である。				
(3) ・附属校として求められる研究テーマを設定し、その取り組みと成果を発信する。 ・生徒の対外的な成果発表を支援する。	① 生徒会役員中心に積極的に外部に赴き、学校での活動をアピールするとともに、学内の生徒に対しても、外部で身につけた知識を積極的に広める活動を行う。(生指)	ボランティア活動の一環で、生徒会役員が中央授産場に赴き、授産場の役割について学び、その内容を生徒会企画の場で発表した。	中央授産場で、エコキャップ運動についての概要についてや、現場の様子を学習することはできたが、自分たちのボランティア活動の様子をしっかりと報告、PRするには至らなかった	C		A	
	② 「学びの自立を目指す評価の工夫と改善」をテーマとし、理科として各担当、各教科が共同で取り組む。 (理科)	・小中高研究部会で「深い学び、自立的な学び」に関して年間を通して校種による特徴をふまえて議論することができた。	校種をこえた授業見学を積極的に行っていく。	A		B	
	③ 発表会やコンサート等で、外部に成果を発信したり、挑戦したりする機会を持つ (音楽科)	クラスでの発表会の他、クラブでのコンサート、初めての他校合同演奏会の場も経験させることができた。	活動を継続し、参加者を増やす	A		A	

	<p>④ 大阪教育大学数学会に関わる教育実践(大会・例会での授業実践)を、より充実したものへと発展させる。近年の本会のテーマは「考える楽しさをつくる算数・数学の授業の工夫」である。(数学科)</p>	<p>附属平野地区で行われた大阪数学教育大学数学会研究発表会において、中学2年生のクラスで授業をおこなった。また、本校の教育研究会で「『深い学び』実現のための教材研究と指導方法の在り方」といテーマで中3と高IIで研究授業をおこなった。数学オリンピックやSSHに参加する生徒をサポートした。</p>	<p>数学科でアクティブラーニングをどのように行なうかということに関する教科内での議論が十分ではない。今回の教育研究会での発表を1つのモデルとして、これからの議論の深まりを期待したい。数学オリンピックに関しては、中学生のジュニア数学オリンピックへの参加などが、望ましいと考える。</p>	A		B	
	<p>⑤ 「学びの自立を目指す評価の工夫と改善」を学校全体の研究テーマとして設定し、特に本年度は、「主体的・対話的で深い学び」を取り上げ、教科会・公開授業・小中高研究会などで研究に取り組む。教育研究会や研究集録を、日常的な研究の成果の発表の場としても位置づける。(研究)</p>	<p>「深い学び」に焦点を絞って、教科会・公開授業・小中高研究会などで検討がされ、その延長上に教育研究会での発表となった。またこれらの取り組みについては、研究集録に掲載した。</p>	<p>公開授業や研究会などで「深い学び」についての教材開発や実践例は、蓄積されてきているが、その評価については、今後の課題であり、次年度以降、特に「指導と評価の一体化」に焦点をあてた取り組みと研究会での発表を目指す予定である。</p>	A		A	

